

各地のたより



ブナ林での森林浴

地域イベントで 木工クラフト



「黒尊むらまつり」が開催され、天気も良く、多くの方が黒尊溪谷の紅葉と流域の料理を堪能しました。

一月一日、高知県

四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で「黒尊むらまつり」



「山の日制定記念」のぼり旗や「四国山の日賞」のパネル展示



このイベントは、黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で、同会議の構成員である当センターは「作って遊ぼう」コーナーと「八面山山登り」を担当しました。

絶好の登山日和となり、参加された一二名が八面山やブナ林などの自然や森林浴を楽しみました。

「作って遊ぼう」コーナーでは、沢山の来場者で賑わい、サクラやミズメ等の小枝を使用したクマのストラップ作りを体験してもらい「八面山山登り」では、

新たに国民の祝日として平成二八年から八月一日が「山の日」に制定されこ

とから、「山の日制定記念」をPRする「のぼり旗」を建てて、来場者に広く知っ

てもらいました。また、四

国の森林等をフィールドとして、四国の森づくり活動に積極的に取り組んでいる団体に贈られる「四国山の日賞」に選ばれた六団体を紹介するパネル展示も行いました。

メイン会場では、地元奥屋内の「お菊の滝」の言い伝えにまつわる「播州皿屋敷伝説」の紙芝居上演。「黒尊むら市」には、地元の食材を使った炊き込みご飯、山菜おこわ、猪汁、鮎の塩焼きなどの地域の料理が沢

山並び、来場された方は流域の料理を食べたり、「神殿橋」周辺等の紅葉を見て、黒尊溪谷の自然を満喫されたようです。

一月九日、地元の高知県四万十市西土佐江川崎で西土佐地域の秋の味覚を集めた「第三回四万十うまいもの商店街」が開催されました。当センターも木工



地域のイベントに「役」
「ふれあい推進センター」



クマのストラップ作り
皆さん夢中です

験コーナーを出店し大盛況となりました。

このイベントは、西土佐

ふるさと市組合の主催で、同地域に「道の駅」が開業する二〇一五年を前に、西土佐を中心とした四万十川流域の地域グルメをPRしようとするもので今回で三回目の取組みです。

当日は、朝から生憎の雨模様でしたが、昼前頃からは小雨となり、地元産品等を使った飲食販売や各種催し物が予定どおり行われ、人々の笑い声や歓声が各会場から絶えず聞こえていました。

の仲良しグループや親子連れが沢山訪れ「かわいい」と大人気でした。

天候に少し、恵まれませんでした。地域との結びつきを深めるとともに、木の温もりを伝えられた秋の一日となりました。



十一月七日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生二一名を対象に、今年度五回目の森林教室（炭焼き体験）を行いました。

最初に、スライドを使い炭の種類や利用法を説明

白炭の音色を楽しむ



し、白炭と黒炭の堅さの実験をしました。ノコギリを使用した炭の切断では、黒炭は簡単に切れるのに対し、白炭は堅くてなかなか切れず、その違いに驚いていました。また、白炭を木の棒でたたいて、「チンチン」と鉄琴のような綺麗な音色を楽しみました。

続いて、炭焼き体験。児童達は、職員から手順や注

意点を聞き、ブリキ缶の中に、もみ殻とマツボックリやドングリ、折り鶴など自分達で作った物を詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。

また、アルミホイルに包んだサツマイモが炭になるかについての実験もしました。たき火に入れて、約三〇分たった頃、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方で、児童達はアルミホイルの中身が気になる様子でした。

どちらもたき火の中から取り出し、ブリキ缶が冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、サツマイモは皮の表面だけが黒く焼け、残念ながら炭にはなり

ませんでした。焼き芋となり、みんなで美味しく食べました。

焼き芋を食べ終わる頃に、冷えた缶を開けると、折り鶴やドングリ、マツボックリなどはちゃんと炭になっていました。

児童達は折り鶴等が燃えることなく「炭」になっていることに、とても喜んでくれました。



気になるアルミホイルの中身

「小筑紫小学校」



キオンの花が咲きアサギマダラが羽を休め、秋の装いを見せている八面山に、一〇月二四日、高知県宿毛市立小筑紫小学校五年生二〇名、一〇月三〇日、四万十市立利岡小学校三



「利岡小学校」



六年生二六名、一〇月三一日、四万十市立西土佐小学校五年生二四名、一一日、愛媛県松野西小学校四年生二一名を迎え森林体験学習を行いました。準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを学習しながら、約五〇分で八面山山頂(一、一六五m)に到着しました。

「西土佐小学校」



山頂では、遠くに見える三本杭(滑床山一、二六六m)が、土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てたことから「三本杭」と呼ばれるようになったことを話すと、驚いていました。その後、近くのブナ林へ移動して、職員が、森林の持つ様々な働きを説明した後、ネイチャーゲーム「カ

「松野西小学校」



モフラージュ」と「フィードビンゴ」を楽しみました。この森林教室で実際に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、森林への興味や関心を持つなど、学習の一助になれたものと実感しています。



不法投棄物の回収作業



回収したゴミは、エアコン、洗濯機、タイヤといった大型のものから、ペットボトルや空き缶など大小様々なものがありました。

九月三日に愛媛県久万高原町の行長山国有林、そして一月七日には砥部町の大谷山国有林において、林内に不法投棄されていたゴミの回収作業を愛媛署職員が行いました。



ゴミの分別作業

しまつて良心が痛まないのでしょうか。また、これを回収処理するには何倍もの労力が必要であることが分かり、山林への不法投棄が社会全体としていかに不経済であるかを痛感しました。

作業は、回収されたゴミをバックにしての記念撮影で終了し、大量の不法投棄物への呆れた気持ちはあつたものの、職員一同爽やかな気持ちで終えることができました。

作業完了後の職員



な気持ちで終えることができました。

当署では、この他にも不法投棄物が多いと見られる国有林が何か所もあり、職員によるこのような活動を展開することによって、地元への貢献につながればと考えています。

なお、今回の回収ゴミの処理については、地元の市町の協力を得て、市町指定の処理場へ持ち込んで処理してもらえた箇所と、市町の協力が得られなかったため地元業者に処理を委託せざるを得なかった箇所がありました。限られた予算の中ということもあります。が、地域環境のための善意ある活動として、地元の理

解・協力が得られるものにしていければと思つています。

集材架線に関する

現地検討会の開催



一月二六日、当署主催

で、国有林の生産現場をフィールドに集材架線作業における安全確保に関する現地検討会を開催しました。

今年度、当署では、請負事業等による災害が既に六件発生しており、特に生産請負事業において、架線撤収中に高所から転落するという重大災害に準ずる災害

集材架線現地検討会



が発生しています。こうしたことから、集材架線設備や集材作業における安全確保のための留意点について、実際に架線集材を行っている現場で検討会を実施したものです。

地球温暖化防止等の観点から、今後は、間伐に加え主伐・再造林を推進していく必要性が求められるなか、十一月二六日、高知県



当日は、国有林の生産請負事業を実施している林業事業体を中心に高知県幡多林業事務所、民有林事業実施事業体などからの参加も含めて約七〇名が参加し、活発な意見交換を行いました。最後に、各現場に帰り今回の検討委員会を参考に、今一度、設備点検を実施して安全作業に取り組むことをお願いし検討会を終了しました。

現地検討会



仁淀川町若山谷口両平山国有林二八七ろ林小班で、コンテナ苗植栽現地検討会を開催しました。当事業地は、本年度請負生産による複層更新伐を予定しており、現在、伐採と路網による木材搬出を実行中の箇所です。その更新箇所の一部に当

署では、初めてコンテナ苗を植栽することとしたので、近隣のいの町役場及び仁淀川町役場の林業関係職員並びに高知中央森林組合及び仁淀川森林組合の職員、当署職員、併せて三五名の参加により実施しました。

まず、森林技術・支援センター池本所長よりコンテナ苗の特徴について説明をした後、専用の植栽用器具を使い、参加者の皆さんにも実際に植栽して頂きました。最初はなれない器具のため、戸惑いもあるように見えました。すぐに使いこなせるようになり、「鋏と違い、腰が楽だ」「早く植える事が出来る」など好

評でした。

その後の意見交換では、「ヒノキのコンテナ苗の生産状況はどうか」、「まだ、コンテナ苗の生産者が少なく生産の拡大が課題でもあり、設備や支援が必要」等の意見がありました。行政や地域の林業に携わる関係者が造林事業の低コ



コンテナ苗専用の植栽用器具を使い植栽している様子



天然スギ巨木を見上げている児童

スト化に向け意見交換や情報
報の共有ができ、貴重な一
日となりました。



立佐喜浜小学校三・四年生
一四名、保護者二名、教員
三名を対象に、森林教室を
実施しました。

この森林教室は、地域の
自然や産業、文化について、
人々と関わり合いながら体
験的に学び、地域に愛情を
持つて生きて行こうとする

一二月二日、高知県
室戸市佐喜浜「佐喜浜躍動
天然杉郷土の森」(段ノ谷
山国有林)において室戸市

段ノ谷山は、天然杉の巨
樹・巨木が群生しており、
に毎年実施されています。

その中で特徴的な天然杉
三三本に「大魔王杉」「火
炎杉」「ゾウ杉」「たこ八
杉」など、形から想像した
ユニークな名前がつけられ
たり、また、室戸世界ジオ
パークサイトの一つにも指
定されています。

登山は二班に分かれ、当
署が作成した「段ノ谷山天
然杉ガイドマップ」「樹木
の話」を活用しながら、樹
木の見分け方や特徴、天然
杉の名前の由来、人工林と
天然林の違いなどを説明し
ながら登っていきました。
生徒には事前に資料を渡し
学習してもらっていました
が、実際に見る天然杉は想
像以上だったようで、「大
きい。何メートルくらいあ

るの」「どうしてこんな変
わった形になるの」など歓
声をあげながら見入ってい
ました。



熱心にメモを取る児童
(森林の働きについての説明)

りますか」「天然杉の中で
一番樹高が高い木はどれで
すか」等たくさん質問が
できました。中にはすぐに返
答できない質問もありまし
たが、森林についてとても
興味を持っていました。

下山後、生徒に感想を聞
いたところ、口々に「楽
しかった」と笑顔で答えて
くれて、森林の中で学びな
がら自然とふれあうことの
楽しさを実感したようで
した。今後も段ノ谷山の
フィールドを活用した取組
みを継続的に実施し、森林
の大切さや役割、地域の自
然などについて、普及啓発
に取り組んでいきたいと思
います。

また、広場において「森
林の働き」についての説明
を行った際には、熱心にメ
モを取り、「魚梁瀬スギと
の違いは何ですか」「段ノ
谷山には何種類の樹木があ

また、広場において「森
林の働き」についての説明
を行った際には、熱心にメ
モを取り、「魚梁瀬スギと
の違いは何ですか」「段ノ
谷山には何種類の樹木があ

また、広場において「森
林の働き」についての説明
を行った際には、熱心にメ
モを取り、「魚梁瀬スギと
の違いは何ですか」「段ノ
谷山には何種類の樹木があ